

蓬萊町界限(その三十三)

八百屋お七のこと(中)

林 順信

才覚ある井原西鶴

世は最も江戸文化の栄えた五代將軍綱吉の治世、世間をさわがせた八百屋お七の事件から僅か三年後に出版された井原西鶴の『好色五人女』の第四巻に、早くもお七のことを取り入れている。大阪の西鶴はさすが関西の作者、なかなか才覚ある選択だったといえる。

五人女には、おなつ清十郎、情を入れし樽屋物がたり、中段に見る替屋物がたり、恋の山源五兵衛物がたりと共に五つの短編となっている。今までの三回でお七の史実に近いと伝えられる事のなりゆきは紹介して来たが、ここで西鶴のお七『恋草からげし八百屋物語』のあらましを辿ってみよう。

西鶴は全体としては、お七の放火事件の史実にのっとり、多少の脚色をほどこして、五章

に分いて筆を運んでいる。

◎第一 大節季はおもひの闇

大節季とは大晦日のこと、北東の寒風(ならび風)が吹き渡る師走、二十八日に焼け出された本郷追分の八百屋八兵衛(史実は久兵衛)一家は旦那寺の駒込吉祥寺に当座の難をさける。(史字は円乗寺)

「八百屋八兵衛とて売人、むかしは俗性賤しからず、此人、ひとりの娘あり、名はお七といへり。年も十六、花は上野の盛、月は隅田川のかげきよく、かゝる美女のあるべきものか、都鳥、業平に、時代ちがひにて、見せぬ事の口惜(くちおし)、是に心を掛ざるはなし」と、お七を大分ヨイショして持ち上げているが、江戸時代の浮世絵や絵草紙などのさし絵で見るとお七は、富士びたいに柳腰などという大人のお色艶う女性ではなく、十六歳だったから、どちらかという丸ぼちゃの可愛らしい女に描かれている。

母親は娘のお七にきびしく付き添って、男性は油断ならぬという気の配り様だった。

ある指にとげがさきつた寺小姓が通りかかった。お七は毛抜きで彼のとげを抜いてやろうとする、そのとき、寺小姓から手を強く握られ、彼に対する恋心が芽生える。若い寺小姓は小野川吉三郎という優しく情深い人であるときいて、お七は恋文を送る。吉三郎も思ひのかずかずを恋文に託して、次第に二人はお互いに浅からぬ

思い人、想われた人となるが、深い交わりにも進展せず、やたら時がへてはや松の内もすぎってしまった。(史実では小野川吉三郎は左兵衛となつてゐる)。

◎第二 虫出し 神鳴も禪かきたる君様

正月十五日の夜半、米屋の八左衛門という長いわづらいの人が亡くなり、寺の長老や僧たちが野辺おくりに出かけて、残るは七十過ぎの老婆と十二三の新発意(しんぼち、小坊主)と赤犬だけ。この機会に、お七は客殿をぬけ出して吉三郎の寝所に忍び込んだ。吉三郎と一緒に寝ていた新発意が驚いて起き上がった。お七は新発意を何とかごまかして、吉三郎とはじめて肌をふれ合い、ふたりの行く末をちぎり合つた。

「雨のあがり神鳴、あらけなくひびきしに、是はほんに恐わやと、吉三郎にしがみ付けるにぞ、おのづから、わりなく情なふかく、ひえわたりたる手足やと、肌へちかよせしに、お七、うらみて申侍るは、そなた様にも、かく身をひやせしは、誰させるけるぞと、首筋に喰つきける、いつとなく、わけもなき首尾して、ぬれ初しより、袖は互に、かぎりは命と定めける、程なく、あけぼのちかく……」ほどなく母が尋ねてきてお七を引き連れてゆく。

◎第三 雪の夜の情宿

「油断のならぬ世の中に、殊更見せまじき物は、道中の肌付金、酒の酔に臨指、娘のきはに捨坊主と、御寺を立帰りて、其後は、きびしく

恋を裂きける。され共、下女が情にして、文は
数通はせて、心の程は互にしらせける」

両親の監視がきびしい日々がつづいた。ある
雪の夕べ、板橋近くの里の子が、松露や土筆
(つくし)を籠に入れて売りにきた。雪が止ま
ないので帰るに帰れぬと、里子は一夜の宿を乞
うので、土間にとめてやった。

寒い夜風が土間に入り込むとかわいそうだと、
湯を与えに行つた下男に、里子は言い寄られる。
八つの鐘(午前二時頃)主人の姪が産したと
いう知らせで両親はあわただしく出かけて留守
となつた。さわぎで目を覚ましたお七が里子を
よく見ると、なんと恋しい吉三郎、寒さで凍え
る吉三郎と寝間に招き入れて心のたけを語り明
かそうとすると、はや両親が帰つて来た。ふ
たりは物音たてずに、紙と筆とで語り合うが、
恋の思ひは語りつくせない。

◎第四 世に見おさめの桜

こうして悶々と心を乱す日々が重なる。西鶴
の原文ではその心のうちを説く。

「それとはいわずに、明暮、女ころの墓な
や、あふべきたよりもなければ、ある日、風の
はげしき夕暮に、日外(いつぞや)寺へに行
く世間のさわぎを思い出して、又さもあらば、
吉三郎殿にあひ見る事の種とも成りなんと、よ
しなき出来ころにして、悪事を思い立てそ因
果なれ」

史実の方ではこのあたりの下りは、近所のな

らず者の吉三郎という若者がお七に入れ智恵を
したことになっている)。

そしてとうとうお七は自分の再建された追分
の家に火をかけてしまう。お七は鈴ヶ森で極刑
の火あぶりの刑に処せられる、時に、十七歳の
春であつた。

一方の吉三郎はお七を思い悩んで病の床にあ
る。お七のことを知つたら命も落としかねない
と、ひそかにお七の供養をすました両親だが、
お七の思い人に一目だけでも会いたいとお寺
に頼むが、寺僧に説得されて吉三郎の回復を待
つこととなつた。

西鶴は「かりにも人は悪事をせまじき物なり、
天是をゆるし給はぬなり。此女、思い込みし事
なれば、身のやつるゝ事なくて、毎日、有し昔
のごとく黒髪を結せて、うるわしき風情、惜や
十七の春の花もちりぢりに、ほとゝぎすまでも
惣鳴(そうなき)に、卯月のはじめずかた、最
期ぞとすゝめけるに、心中更にたがはず、夢幻
の中ぞと、一念に、仏国を願ひける心ざし、さ
りとしては痛しく、手向花とて、咲おくれし桜を
一本もたせけるに、打ながめて、

「世のあわれ 春ふく風に名を残し、おくれ
桜のけふ散し身は」と唸じけるを、聞く人一し
ほにいたまはしく其姿をみおくりけるに」と、
あたたかい気持でつづっている。

◎第五 様子あつての俄坊主

お七の百ヶ日、恋の病いも少しは快氣した吉

三郎は、お七の卒塔婆を見つけてその死を知る。
吉三郎は氣おくれして死ねなかつたでは情な
いと、腰の刀に手をかけてお七のあとを追おう
とした。驚いた周囲の人々が吉三郎に止めに入
る。吉三郎は一応は皆の説得を承知するが、そ
れでは世間の聞こえが悪いからせひ刀で自分み
づから命をたちたいという。

お七の母親は、お七の遺言として、あなたは死
なずに出家することだと懇願すると、ようやく
彼は承知してお七の霊をとむらうために出家す
る。吉三郎の兄貴も吉三郎を説得して、兄貴は
故郷の松前に帰つて出家した。

吉三郎の出家は古今の美男として世の人々から
惜しまれたという。

一。一。一。一。一。

演劇の方では、上方が早く、大阪の嵐座で
『お七歌祭文』(宝永三年一七〇六年)
大阪の豊竹座で『八百屋お七恋緋桜』(享保二
年一七一九年)、『油色江戸紫』(延享元年一
七四四年)に上演され、江戸では明和三年
(一七六六年)に『八百屋お七恋江戸紫』が
上演されている。

町会活動の概要

平成6年5月上旬から

7月下旬まで

総務部

本年の「つつじ祭り」は発足25回目に当たり、種々多彩な催しを連日企画し、4月15日から5月5日まで延べ21日間、にぎにぎしく開催されました。

この催しは各町会の全面的な奉仕活動によって、企画、実施され、会期中は天候にも恵まれ、連日、遠隔地からの参観者も多く大変に皆さんの好評を受け、無事閉会となりました。

- 5/10 向丘地区町会連合会（12町会）総会
- 5/18 「文京区を愛する会」総会
- 5/21 蓬萊友の会、総会
- 5/22 駒本小学校創立40周年記念運動会、催される。

- 6/8 本郷郵便事業協力会、総会
- 6/15 本郷清掃事業協力会、総会
- 6/16 本郷通り（当町会該当地域）の街路灯の改修並びに新設について都道管理者である東京都に対し、追分町会と共に陳情書を提出、近い内に歩道部分も明るくなります。

6/25 蓬萊町会総会を開催、平成5年度事業報告並びに決算報告続いて平成6年度の事業計画、事業予算を慎重審議の結果承認されました事を会員皆様に報告申し上げます、なお、本件の決算書及び予算書は本紙の頁末に掲載してございます、よろしくご覧下さい、

6/28 最近、東京都並び区の広報紙によって、会員皆様もご周知の事と思いますが、近い将来に実現する地方自治権の委譲に伴う、都から区へのゴミ処理全面移管にかかわる問題について、向丘地区町連に概略の説明会がありました、説明会に於いても具体的な方途は今の時点で定まっていなない為、今のところ詳しくお知らせ出来ない現状です、☆地域（北部）役員の一部交代について、旧 故 高橋一郎氏 新 中島行雄氏

防火防災部

5/15 文京区役所、本郷消防署共催、「防災講習会」開かれる、この様な催しは、年3回程度行われます、その開催の都度に会員皆様には回覧、掲示板によって参加をお願いしておりますが、思うように皆さんの自主的な参加が望めず町会としては残念に思っております。大小に拘わらず災害はいつ起こるか解りません、この様な時に講習会で見たと、聞いた、ちよつとした知識が、きつと役に立つのではないのでしょうか。本年は3年振りに本郷地区で「防災の日」の連合訓練が行なわれます、（開催日、9月1日、場所、東大農学部グラウンド）詳しくは、後日、回覧、掲示等でお知らせを

いたしますので、この機会に是非皆さんのご参加を願っております。

防犯部

5/15 駒込防犯協会、総会

交通部

5/19 駒込交通安全協会、総会

文化部

5/20 蓬萊だより、第38号発行

衛生部

5/26 本郷伝染病予防委員会、総会

婦人部

5/3 「つつじ祭り」甘酒茶屋、婦人部全員終日奉仕

5/23 日本赤十字募金

この様な募金活動については、毎度ながら町内皆様方の温かいご理解とご支援を戴きまして有難うございます。お預かり致しました金円は本日募金会に納付しました、金一八四、五〇〇円（二六二件）

青年部

「工作教室」開催

子供さんも夏休みに入りましたので、大観音境内を会場に「工作教室」を催しました、廃木材を活用しての工作ですが、子供達の卓越した発想で奇抜な作品も多山出来たようです、元氣一杯、記憶に残る楽しい夏休みをどうぞ

計 報

当町会にお住まいの方で本年5月から7月中旬までの間に逝去なされた方のお名前は左記の通りでございます。

謹んで哀悼の意を表し心よりご冥福を祈念申し上げます。

長谷部 章子様、城 英倫様、小池 登紀様

編集後記

本年は、カラ梅雨の上にならざるような酷暑の毎日が続きましたが如何お過ごしだったでしょうか、暑さ寒さも彼岸までと申しますから暫時の辛抱かと存じます。

秋のそよ風が幾分感じられる9月には根津神社の大祭、本年は本祭に当たる年ですので、町内を挙げて賑々しく祭礼を営みたいと、ただ今種々準備を進めている所でございます。

町内の皆様にもまた過分なご芳志をお願い致す事になります。が事情を少し酌の上、よろしくご協力をお願い申し上げます。

なお、町内神輿の渡御には大勢の担ぎ手が是非必要です。後日、渡御参加申込書をお配り致しますが、そ

の節には奮って皆様お誘い合せになって町の神輿を担いで下さい。

編集委員
小林 音吉、川西 正道、竹中 一馬、猪熊 良晃、池田 暉

蓬萊町会 平成5年度、決算報告書
決算期間、平成5年4月1日から平成6年3月31日まで

収入の部			支出の部		
勘定科目	金額	摘要	勘定科目	金額	摘要
前期繰越金	187,479		総会費	126,414	会場、飲食
町会 会費	1,679,600		会議費	65,030	会場礼金等
補助金	224,025	区から	図書部費	73,687	部活、研修
寄付金	42,000		渉外費	256,330	団体分租金
雑収入	150,714		備品費	69,000	備品 購入
銀行 利息	747		事務費	51,540	事務付帯費
			通信交通費	121,830	
			電灯費	36,783	新灯電力費
			防火防災部費	37,799	部活、研修
			防犯部費	67,166	"
			交通部費	50,000	"
			衛生部費	4,000	"
			文化部費	141,338	"
			婦人部費	120,588	"
			青年部費	300,000	"
			慶弔費	70,300	見舞、香典
			消耗品費	75,122	事務用品等
			防災備立金	200,000	☆繰越積立
			特別行事準備金	200,000	"
			次年度繰越金	217,638	
合 計	2,284,565		合 計	2,284,565	

平成5年度の収支決算について、上記の通り報告いたします。
平成6年6月25日
町会長 小林 音吉 印
会計 川西 正道 印
監査結果、監査にあたり、収支に拘わる内容及び帳簿の記載、伝票の記録保存等
細部に亘り厳密な監査をしましたが、遺憾なく正確に処理されています。
監 査 竹中 一馬 印
◎平成5年度末に於ける町会総会の総額は、〒2,264,531円となります。
◎平成5年度末に於ける特別行事準備金(積立方式)〒200,000円となります。

蓬萊町会 平成6年度、予算計画書
予算執行期間、平成6年4月1日から平成7年3月31日まで

収入の部			支出の部		
勘定科目	金額	摘要	勘定科目	金額	摘要
前期繰越金	217,638		総会費	180,000	会場、飲食
町会 会費	1,650,000		会議費	130,000	会場礼金等
補助金	224,025	区役所から	渉外費	250,000	団体分租金
雑収入	100,000		備品費	100,000	備品 購入
銀行利息	800		事務費	60,000	事務付帯費
			通信交通費	130,000	
			電灯費	50,000	新灯電力料
			図書部	140,000	部活、研修
			防火防災部	80,000	"
			防犯部	70,000	"
			交通部	100,000	"
			衛生部	10,000	"
			文化部	220,000	"
			婦人部	200,000	"
			青年部	300,000	"
			慶弔費	70,000	見舞、香典
			消耗品費	100,000	事務用品等
			予備費	2,463	
合 計	2,192,463		合 計	2,192,463	

平成6年度の予算(案)は、上記の通り計上しました。
蓬萊町会 会員各位 股
平成6年6月25日
蓬萊町会